



多賀城碑覆屋



古代東日本の城・柵 略年表

大化元(645)年	8月大化改新〈書紀〉
大化3(647)年	是歳越国に淳足柵を造り、柵戸を置く〈書紀〉
大化4(648)年	是歳越国に磐舟柵を治め蝦夷に備え、越・信濃の民を柵戸に配置〈書紀〉
齐明天皇4(658)年	4月阿倍比羅夫・鰐田・淳代の蝦夷を征討〈書紀〉 是歳都岐沙羅柵造らに授位〈書紀〉 (この頃仙台郡山遺跡第1期官衙造営)
齐明天皇6(660)年	3月阿倍比羅夫、蝦夷・肅慎を征討〈書紀〉
持統天皇3(689)年	正月陸奥国優耆曇郡の城養蝦夷に沙門を許す〈書紀〉
文武天皇2(698)年	この頃仙台郡山遺跡第2期官衙造営
文武天皇4(700)年	2月越後・佐渡国に石船柵を修営させる〈統紀〉
和銅元(708)年	9月越後国に出羽郡を建てる〈統紀〉
和銅2(709)年	7月出羽柵初見〈統紀〉
和銅5(712)年	9月出羽国建国〈統紀〉
養老4(720)年	9月蝦夷反し按察使殺害、征討將軍等任命〈統紀〉
養老6(722)年	8月陸奥鎮所初見〈統紀〉
神亀元(724)年	是歳按察使鎮守將軍大野東人多賀城を置く〈多賀城碑〉
天平5(733)年	12月出羽柵を秋田村高清水丘に移す〈統紀〉
天平9(737)年	4月陸奥国多賀柵、玉造柵ら五柵初見〈統紀〉
天平21(749)年	2月陸奥国小田郡で金産出〈統紀〉
天平宝字2(758)年	12月桃生城・雄勝柵造らす〈統紀〉
天平宝字6(762)年	12月節度使藤原惠美朝獺が多賀城修造〈多賀城碑〉
神護景雲元(767)年	10月陸奥国伊治城作了〈統紀〉
宝龜5(774)年	7月海道の蝦夷反し、桃生城西郭を破る〈統紀〉 (対蝦夷三十八年戦争開始)
宝龜11(780)年	3月陸奥国覚繁城造営着手、伊治郡領反し 按察使らを伊治城で殺害、反徒ら多賀城を侵す。 8月出羽国由利柵・大室塞初見〈統紀〉
延暦21(802)年	正月坂上田村麿に陸奥国胆沢城造営を命ず〈紀略〉
延暦22(803)年	3月造志波城使坂上田村麿辞見〈紀略〉
延暦23(804)年	正月陸奥国中山柵初見〈後紀〉
弘仁2(811)年	12月陸奥出羽按察使文室綿麻呂が 志波城遷置を建議し、許さる〈後紀〉 (対蝦夷三十八年戦争終結)
弘仁5(814)年	11月胆沢・徳丹の二城に糒・塩を收納〈後紀〉
貞観11(869)年	5月陸奥国大地震、各地被災、海水多賀城下に至る〈三実〉
元慶2(878)年	3月出羽国夷俘反し、秋田城を焼く〈三実〉
元慶3(879)年	是歳守藤原保則、秋田城を復立、旧制に倍する〈保則伝〉
寛平9(897)年	9月秋田城の甲冑自鳴〈紀略〉

資料提供／岡田茂弘

講師：岡田茂弘氏



昭和9年、神奈川県生まれ。同志社大学大学院文学研究科修了。宮城県多賀城跡調査研究所長、東北歴史資料館副館長、東北歴史博物館館長などを経て、現在、国立歴史民俗博物館名誉教授。共編著に『多賀城と古代東北』（吉川弘文館）などがある。

MIYAGI

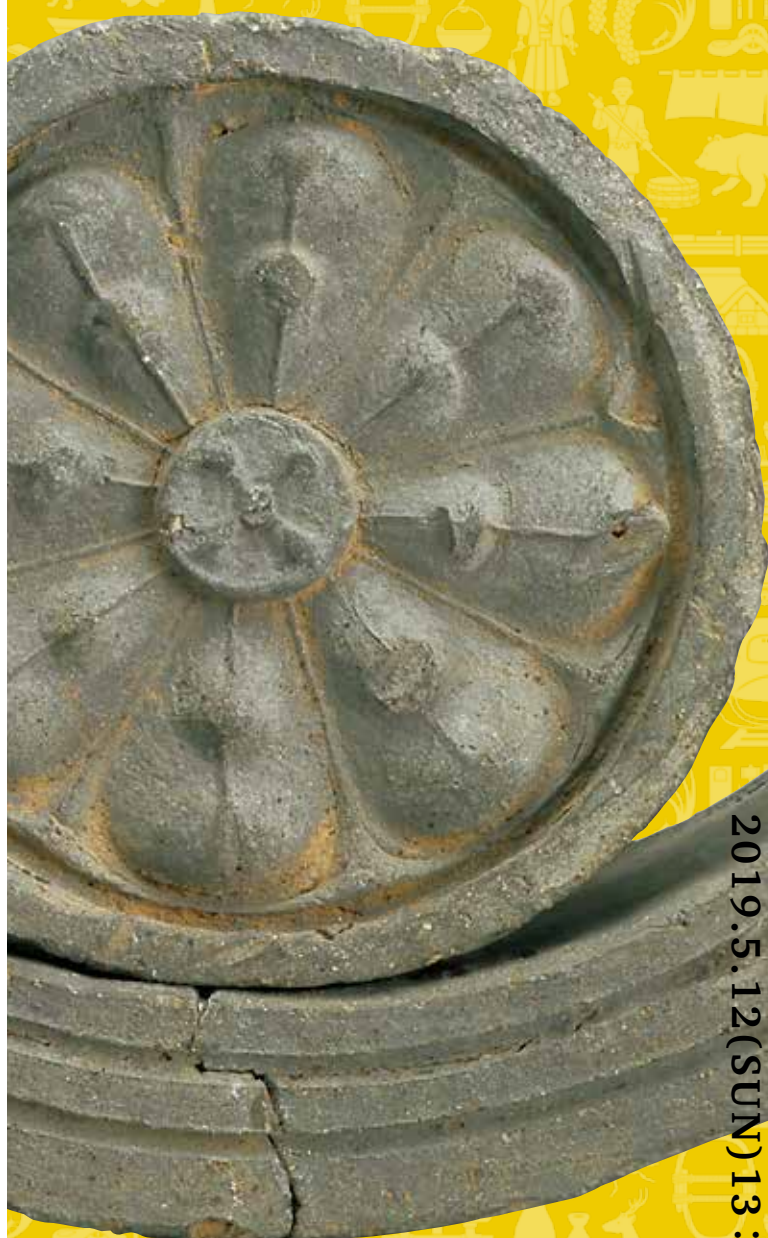
宮城

第4回

第1部

多賀城が物語る 古代東北の姿

ヤマト政権はなぜ北へ向かったか



2019.5.12(SUN)13:00

多賀城第1期 軒瓦(写真提供／東北歴史博物館)



深まる
一冊

シリーズ「遺跡を学ぶ」66
古代東北統治の拠点・多賀城
進藤秋輝著(新泉社)

律令国家の黎明期、仙台平野を望む丘陵に創建された多賀城。元東北歴史博物館館長が、発掘調査を基に東北経営を司った城柵の実像に迫る。



多賀城が物語る古代東北の姿 ヤマト政権はなぜ北へ向かったか

上空から見た多賀城跡。中央に位置する政庁では、重要な政務や儀式が行われていた
(写真提供/東北歴史博物館)



1 中央の勢力が及んでいなかった北東北

奈良時代の養老4(720)年、都で『日本書紀』が完成した年、列島の南と北で反乱が起きた。南の反乱は薩摩国の隼人、北の反乱は陸奥国北辺の蝦夷によるものだ。ともに鎮圧され、九州は完全にヤマト政権の統治下に入ったが、北東北にはまだ中央の支配が及ばず、現在の岩手・秋田県以北は蝦夷の土地だった。宮城県多賀城市に遺跡がある多賀城は、このときの蝦夷の反乱をきっかけとして誕生した城柵である。創建は神亀元(724)年。それまで郡山遺跡の地(仙台市)に置かれていた国府(政庁)を移したものと考えられている。また多賀城は、反乱が起きたと推定される大崎地方を中心に、城柵群を援護する鎮守府(軍事拠点)でもあった。東北一円を勢力下に置こうと目論むヤマト政権、その太平洋側の一大拠点となっていた。



漆液の乾燥防止に用いられた不要な役所の文書が、腐食せずに出土した漆紙文書
(東北歴史博物館蔵)

2 金の発見で加速したヤマト政権の北方進出

昭和44年、宮城県多賀城跡調査研究所が設置され、発掘調査により多賀城の全容が明らかになっていった。それと前後して、東北各地の古代城柵や官衙(役所)の遺跡も調査された。中には先の郡山遺跡のように、史料に記載

のない城柵跡の発見もある。多賀城跡に残る多賀城碑には、この城柵が

日本三古碑の一つ、神亀元(724)年多賀城碑。天平宝字6年12月1日と建立年月日が刻まれている(写真提供/東北歴史博物館)



ふじわらのえみのあそみあさかり
(762)年に藤原恵美朝臣朝獨が修造したと刻まれている。多賀城は4回建て替えられているが、朝獨が造営

した第Ⅱ期が最も華々しい。天平21(749)年、陸奥国小田郡(遠田郡涌谷町付近)で金が発見されるとヤマト政権は北方への国域拡大に力を入れた。しかし、その圧力は蝦夷の反発を招き、衝突が絶えなかった。最盛期とされる第Ⅱ期多賀城も、宝亀11(780)年に蝦夷出身の郡領の伊治咎麻呂の反乱で焼失した。

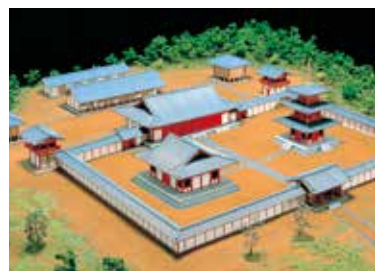


天平21年の金の発見は、奥州藤原氏が築いた平泉黄金文化へとつながっていく

3 奥州藤原氏の時代まで続いた国府多賀城

8世紀中葉から9世紀にかけて、ヤマト政権は現在の岩手県内に進出。胆沢城や志波城などの城柵を築く。日本海側では秋田城を築き、出羽国(山形県および北部を除く秋田県)の国府とする。多賀城は宝龜5(774)年、蝦夷の桃生城(石巻市)焼き討ちに始まる三十八年戦争の後に再建されるが、貞観11(869)年の大震災により損壊。さらに震災後に復旧され、律令制が崩壊する10世紀中葉まで続く。時代は移り12世紀、平泉を拠点に奥州藤原氏が東北の覇者として、外が浜(陸奥湾)までを実質的に支配す

多賀城廃寺の伽藍模型。仏教による東北の安定を図り建立された(写真提供/東北歴史博物館)



鼻節神社で発見された国府厨印。厨は食料管理を担う部署と考えられている
(鼻節神社蔵、写真提供/七ヶ浜町歴史資料館)

る。これにより、東北地方はようやく日本国に組み入れられることになる。多賀城は、その創建から奥州藤原氏の時代に至る300年余りにわたり、陸奥国府として存続したと考えられる。